

自然体験活動指導に必要な資質能力に関する研究

—活動経験との関連性に焦点を当てて—

堀田 昂瑠 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究は、教員養成課程の大学生を対象とし、自然体験活動指導に必要な資質能力の差異と自然体験活動の経験値との相関についての基礎資料を得ることを目的とする。この目的を遂行するために以下の二つのリサーチクエスチョン（研究論点：以下、RQ）を設定した。

RQ1：教員養成課程の大学生は自然体験活動指導に必要な資質能力を持っているか。

RQ2：研究対象者の自然体験活動の経験値と RQ1 の結果はどのような相関関係があるのか。

2. 研究方法

(1) 対象者

東京学芸大学教員養成課程保健体育科 2～4 年生を対象とした。

2) 調査手順

フェイスシート、資質能力に関する質問 40 項目、活動経験に関する質問 10 項目が記載されたアンケート用紙を用い、対象者に回答を依頼した。収集した回答をスコア化して集計し、分析・考察を行った。

3) 分析方法

RQ1 について、資質能力のスコアの平均値を回答者ごとに算出し、度数分布表とヒストグラムに表すことで、資質能力の有無の傾向を分析した。また、質問項目ごとに平均値を算出し、項目ごとのスコアの傾向も分析した。

RQ2 について、資質能力の有無に関して 3 群に分け、群ごとの経験値のスコア平均値を算出した。経験値に関して一元配置分散分析、多重比較検定 (Bonferroni) を用いて有意差を調べた。また、

本学の集中授業の履修有無に関して、資質能力の有意差を、t 検定を用いて調べた。

3. 結果と考察

1) RQ1 について

7 割以上の回答者が、資質能力の平均スコアが 3.0 を上回っていた。項目別にみると、自然に関する項目はスコアが低い傾向がみられた。

2) RQ2 について

分散分析の結果、0.001%水準において有意差が認められた。すなわち、資質能力が高い人ほど、自然体験の経験が豊富だと考えられる。また、本学の集中授業「野外環境教育実習（夏季）」の履修有無は資質能力に関して、1%水準において有意差が認められた。

4. 結論

1) 要旨

(1) RQ1 について

多くの回答者が、資質能力があるという認識で回答していたが、自然体験の経験不足は影響していることが明らかになった。

(2) RQ2 について

子どもの頃に自然体験を豊富に経験することで、その指導の資質能力が向上する可能性が伺える。教員養成課程における経験にも同様のことがいえる。

5. 主な参考文献

- 1) 別惣淳二・長澤憲保・上西一郎・一山秀樹 (2003)：自然体験活動指導に求められる教員の資質能力に関する調査研究。